



ひよこだより

都立大塚ろう学校 乳幼児教育相談
平成30年11月6日 NO. 7

聞こえない世界を知るためのアンケート

先月、お父さん向けの難聴疑似体験を行いました。まだ体験されていच्छゃらない方は、次回は2月に実施する予定ですので、ぜひ御参加ください。もうすでに体験された方も、2度、3度、繰り返し体験なされてください。南村先生がおっしゃるように「聞こえる人はすぐに忘れてしまう」のですから。体験されるたびに、感じることや、聞こえにくい世界への理解に変化があると思われます。

難聴疑似体験では、まず、補聴器店の協力のもと、イヤーマールドを作成する際の印象剤を両耳に入れてもらいます。両耳がふさがれると、40dB 程度の軽度の伝音性難聴の状態になります。ここで注意すべきは、体験できるのが伝音性難聴であるということです。伝音性難聴は、外耳・中耳において音が伝わっていく過程に原因がある難聴です。一方、ひよこ・ことり組のほとんどのお子さんは、内耳や聴神経に原因がある感音性難聴です。音が聞こえにくいことに加え、単に音を大きくしても音が歪んで聞こえるため、声は入っても、何という言葉なのかを認識するには困難があります。

つまり、聞こえるお父さん・お母さんには、お子さんと全く同じ聞こえを体験することはできません。できるのは「疑似」体験です。しかし、疑似とはいえ体験してみると、軽度の伝音性難聴であったとしても、聞こえにくいということがよく分かります。その状態に比べ、更に聞こえにくく、音が歪むとしたら…それを考えながら体験することが重要なのです。今回は、この伝音性・感音性の違いについてしっかり理解した上で、体験に臨んでいただきました。

難聴体験のあと、感想を話し合う時間があります。そのときに、毎回「聞こえにくいと、自転車や車が近付いてくる気配が分からなく、危ない。」「軽度難聴でこんなに聞こえないのなら、うちの子はもっと聞こえないので、一人で道を歩いて大丈夫なのだろうか、と心配になった。」という感想が聞かれます。

難聴疑似体験では、聞こえる人間が、突然聞こえにくくなるのですから、上記のような感想が出るのは当たり前です。しかし、生まれる前から聞こえない・聞こえにくいお子さんたちの場合は、その状態が自然なことですから、聞こえる人が心配するようなこととはおそらく違います。彼らはこの世界に生まれてきてからずっと「目の人」として、視覚優位で育ち、五感(聴覚、視覚、触覚、嗅覚、味覚)のうち、聴覚以外の4つの感覚が情報を補い、それら4つの感覚が私たち聞こえる人よりも研ぎ澄まされていると考えられます。

そのことを知るために、聞こえない成人の方々(7名)に、アンケートに御協力いただきました。〈聞こえない世界を知るためのアンケート〉です。聞こえない人たちは普段の生活のなかで、どのように危険を察知されているのか。それを質問し、回答していただきました。簡単にまとめてみましたので、報告いたします。

道路を歩いているときに、どのように気を付けていますか。

- ・あまり考えたことがない。
- ・それは聴覚とは関係なく、基本的なことを守っているだけ。
- ・歩道側を歩く。
- ・車や自転車が多く通りそうなときは、端っこを歩いたり、時には後ろを見たりなど意識しています。(時には忘れることも…笑)

道路を歩いているときに、後ろから来た自転車や自動車にはどのように気付き、危険回避をしていますか。

- ・ど真ん中を歩かないようにしているだけです。
- ・最初から歩道を歩く。
- ・普通に視覚で気付き、ちょっと端に寄って歩く感じ。
- ・基本歩道を歩き、前から歩行者や自転車が来たときに、後ろを確認する。
- ・周りの人たちが後ろなどを見たりする雰囲気は普通と違ったりすることで分かる。

車を運転しているときに、気を付けていることはありますか。

- ・ミラーを確認したり、周りを見たりして運転しています。聞こえる人の方が危ない！と思うことが多々あります。
- ・一つだけのことを集中するのではなく、視野を広く見るようにしている。
- ・バックミラーやドアミラーを常に確認しながら走行。
- ・交差点では救急車などが通るので、周りの流れを見るようにしている。

自転車に乗っているときに、気を付けていることはありますか。

- ・後ろを向いて確認したりしているだけです。聞こえる人の方が危険！と思ってしまいます。
- ・曲がるときや避けるときに、一回後ろを見てからにしている。(場合によっては一時停止する) 聴者はほとんど後ろを見ないですぐに曲がったりすることが多い。
- ・基本、左側走行。
- ・車などが多く通る場所には、特に端に寄って乗ります。乗りながら、時々後ろを見ます。とにかく目で確認します。

いかがですか？アンケートの一部なのですが、聞こえる人の方が危ないと思うことがある、という回答が複数ありました。そしてやはり<目の人>です。聞こえる人よりも、見ている範囲や、動く物や状況を目で見て把握する力は優れているようです。

さらに、危険回避だけでなく、日常生活での質問もしてみました。「お湯が沸いたときの音や、冷蔵庫の扉がわずかに開いたときの音、電子レンジがなった音、鍋を温めているときの音など、聞こえる人たちは音を頼りに生活しています。御自分ならではの工夫がございましたら教えてください。」という質問です。複数の回答の中に、気持ちが軽くなる、そしてちょっぴり笑ってしまう、こんな素敵な回答がありました。

・電子レンジの中に入ったままとかしよっちゅうある(笑)。でも、死なないから大丈夫(笑)。冷蔵庫の扉、気を付けているがよくある。「ろう あるある」で片付けている(笑)。水を出っ放しにしているとかもよくある。でも、それで死ぬことはないから、大丈夫。

いかがでしたか？ひよこ組・ことり組のお子さんは、聞こえない人として育ち、そして感性の豊かな大人になっていきます。もし、御心配なことがございましたら、聞こえない先輩たちにお聞きになられると良いですね。

(文責 関根)

